

健 診 後 の 指 導

動 向

予防医学協会が実施している健康診断の受診者総数は統計表（検診・検査の種目別実施数）のとおりである。近年、定期健康診断や人間ドックなどで有所見率が増加しているという報告がなされている。これらの受診者に対して当会では事後措置のために各種外来、保健指導、健康教育の場を提供している。

平成14年度における健診後のフォロー体制は、主に精密検査の実施 フォローアップ 生活習慣改善指導、の三つの柱から受診者を支援している。

事後指導の体制

消化器外来

消化器検診、大腸がん検診、腹部超音波検査の精密検査およびフォローアップを実施している（胃集団検診・大腸がん検診・超音波検診参照）。

循環器外来

定期健康診断、人間ドックなどの循環器系有所見の精密検査、フォローアップ、生活指導などを実施している（循環器精密検診参照）。

生活習慣病外来

生活習慣病の精密検査や生活指導を行うための外来である。検査結果をもとに医師が指導方針を定め、保健師が生活習慣の改善指導を行う。平成12年3月に開設。平成14年度は延べ130名が受診した。

また生活習慣病改善プログラムに参加した受診者の医学的検査、検査結果の説明などを行っている（健康増進参照）

労働災害二次健康診断

業務によるストレスや過重な労働負荷により、脳・心臓疾患を発症し、死亡あるいは障害になり労災認定される件数が増加している。そのため2001年4月から肥満、高血圧、高血糖、高脂血症の4項目全てに異常が見られる場合（死の四重奏）に労災保険で二次健診が行われるようになった。平成14年度は50名が受診した。

特定保健指導は49名で、栄養指導、運動指導、生活指導などライフスタイルの改善の指導を行った。

腎外来

昭和51年からスタート。学校検尿で異常が指摘され管理指導が必要な学童に対する管理指導を実施。その後、事業所の健診で腎疾患の疑いのある人も対象とした。受診者は112名、保健師・管理栄養士による指導は80名。

糖尿病外来

糖尿病の大多数は生活習慣が大きく発病に関与する2型糖尿病である。健診後に所見のあった人に医療管理・生活指導を行う。平成14年度は延べ120名。

保健師・管理栄養士による指導は135名。

女性クリニック

健診受診者の希望で主に更年期前後の症状に対する治療と相談を行っている。平成14年度は133名で年齢階層別には50歳～55歳を中心に45歳～60歳に多く、ホルモン補充療法に対する要望が多い。

保健師が相談しているのは114名。

整形外来

骨粗鬆症予防検査で生活注意、要治療の人の事後指導を行っている。今年度は606名が外来を受診。

特に生活注意が必要な人に食生活、運動などの保健指導を591名行っている。

禁煙外来

禁煙外来は喫煙者に対するカウンセリングであると考えて対処している。当初はパッチを貼ってもらえば事足りると考えていたが、現実には「禁煙希望の喫煙者」との真剣勝負である。従って相手の喫煙モードが奈辺にあるかを探り出し、自らの禁煙への意志が如何なるものであるかを確認する問答をつづける。従って初診時では一人に30分は充分にかけ、二回目からでも15分をかけている。

14年度は16名が受診（延64名）、禁煙成功者は8名、減煙2名で計10名に先づ先づの成功である。成功率は63%。

禁煙外来中はあくまでもきっかけを与えたにすぎない。生涯禁煙を目標に当禁煙外来では保健師によるフォローアップとインターネットによる継続コースの紹介をしている。